

- 1 派遣期日 令和元年11月9日(土)
- 2 研修先 学校名 国立大学法人筑波大学附属中学校  
所在地 〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-1  
<http://www.high-s.tsukuba.ac.jp/jhs/wp/>

### 3 研修内容

#### (1) 視察校における研究への取組

研究のテーマ：中学生と語る探究的な学び

筑波大学附属中学校では、本テーマのもと生徒が主体となる学校運営に力を入れている。今回の研究協議会においても、初めの全体会では生徒が司会進行を務め学校紹介を行っていた。「教えないことに学びがある」という野津有司校長の話の通り、教育活動の中で生徒同士が学び合い、理解を深めることのできる実践が行われていた。

#### ① 探究的な学びの実践

視察校では、各教科の中で「探究的な学び」を取り入れた授業を行っている。

- ア 興味・関心を引き出す導入
- イ 仮説探究と分析
- ウ 相手に届く伝え方
- エ 発見の共有
- オ 仕上げと次時の課題設定

発問の工夫や、探究、分析、意見の共有、まとめがどの教科においても実践されているため、生徒が理解を深めることができている。

また、総合的な学習の時間では、生徒が興味・関心のあることについて研究する機会が各学年で設けられている。調べた内容は、異学年とグループを作り発表を行う。そのため上級生からのアドバイスや、下級生への発表の工夫を行う中で、探究的な学びが繰り返されるという実践が大変参考になった。

#### ② 新学習指導要領に則った、保健体育科の授業実践

平成29年に示された新学習指導要領では、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間力等の涵養」、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」の中で、「何ができるようになるか」ということが、これまでよりも踏み込んで示された。具体的に「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善が求められ、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」ということにとどまらず、「どのように学ぶか」というような、「学び方」が問われるようになった。また、保健分野の目標の中に「基本的な技能を身に付ける」ということが明示された。

今回参観した研究授業では、第2学年の「傷害の防止」における心肺蘇生法を行っていた。体育分野の長距離走との関連が図られ、保健学習の中で実技・実習を取り入れていた。実技・実習について技能の評価をどのように扱っていくかについて考えるよい機会となった。

## (2)視察校における授業の実際

第2学年 保健体育科 題材名「障害の防止 心肺蘇生法」

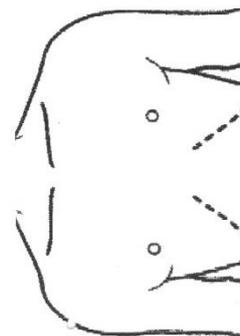
新学習指導要領に準じた、保健学習における実技の授業であった。心肺蘇生法は、通常体育館のような広い場所で大型の人形を使用するが、今回の授業は教室の机の上で行われた。

導入では、前時の授業の内容について、PowerPoint を使用して振り返りを行った。「ドリンカーの救命曲線」と「東京都の平均救急車の到着時間」を比較することで第1発見者の早急な対応が必要であること、AEDの使用が命を救うために重要であることを生徒に再認識させていた。その後、心肺蘇生法の手順を動画で見せ、さらに教科書を用いて詳しく説明をした。胸骨圧迫をする際のテンポは、100～120回/分が理想とされている。テンポを意識させるためにアンパンマンやドラえものの歌を流したことで生徒の興味・関心をひいていた。

説明の後に、4人組の班を作り、実技が行われた。胸骨圧迫の技能を身に付けるために、今回授業で使用されたのは、「サントリー南アルプスの天然水550ml〈写真1〉」であった。蓋をした状態で、傷病者に見立てたシート〈写真2〉にテープで固定した。圧迫する深さは2cm以上となっており、分かりやすくするためにペットボトルのキャップを2つ付けたものが横に置かれていた。順番に練習を行った後、評価について説明された。技能の評価の観点は、①両肩が胸骨（ボトル）の真上にある②両肘を伸ばしたまま行う③100～120回/分のテンポで押す④押す深さが2センチ以上になるようにする、この4点であった。1人ずつ胸骨圧迫を行い、他の3人が評価の観点（①肩の位置と両肘②押す深さ③テンポ）を分担し評価を行った。チェックシート〈写真3〉を用いて、観点ごとの評価と、良かった点、アドバイスを記入していた。まとめで、実習を行って気付いたこと、分かったことを各班の代表者が発表し、最後に教師が助言し授業が終了した。



〈写真1〉サントリー南アルプスの天然水550ml



〈写真2〉傷病者に見立てたシート

評価観点	観察項目	観察結果	評価
①両肩が胸骨（ボトル）の真上にある	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
②両肘を伸ばしたまま行う	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
③100～120回/分のテンポで押す	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
④押す深さが2センチ以上になるようにする	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価
	観察項目	観察結果	評価

〈写真3〉チェックシート

## 4 感想

今回授業を参観し、参考になったことが2点ある。1点目は、PowerPoint の効果的な活用である。前時の振り返りや学習の流れをプロジェクターで映し出し、共有することで生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組むことができていた。心肺蘇生法は手順が多く、説明に時間がかかってしまうが、動画を用いることで容易に説明ができる。また、胸骨圧迫のテンポを理解することができるよう、身近な音楽を流していたことが大変素晴らしかった。

2点目は、胸骨圧迫の技能を身に付けるために、空のペットボトルを活用したことである。これまで心肺蘇生法は、救急救命講習で実習を行ってきた。大型の人形を準備することは難しく、場の工夫も大変であった。今回の授業で活用されていたペットボトルは、スーパーやコンビニで安価で購入することができ、耐久性もある。実際に行ってみたが、圧迫の感覚も人形に近いものがあった。

新学習指導要領の改訂に伴う技能の評価については、今回の授業では生徒同士の相互評価のみで、教師の評価は行っていなかった。技能の評価は1度だけでなく、複数回に渡って行う必要がある。今回の授業のように、教室でペットボトルを使って胸骨圧迫の練習ができることは、技能の習得と、理解を深めるために重要であると考えます。

今後は、自校の生徒の実態を考慮しながら、教材研究を行い、保健学習の指導方法を高めていく。